

むさしの

TALK

38年ぶりに戻ってみても、 やっぱり素敵なまちでした

人物の心模様を巧みに描き出す、漫画家の柴門ふみさん。恋愛指南役として、エッセイも執筆している柴門さんが惚れた、武蔵野市の魅力とは？

柴門ふみさん



武蔵野市に自宅兼仕事場が完成したのが、東日本大震災が起きた2011年3月。家は無事でしたが、震災で流通が不安定になった影響を少し受け、記憶に残る新生活の始まりとなりました。

実は、武蔵野市に住むのは2度目。大学進学のために徳島から上京して、初めて住んだ場所でした。1年だけでしたが、自転車で井の頭公園によく行き、徳島では見たことがなかった大きなケヤキの木を眺めては、東京に来たことを実感していました。そのときの印象が良かったからか、離れてからも「吉祥寺に住みたい」という思いが募るようになりました。今の場所に決めた理由は、庭にある立派なサルスベリの木にひと惚れしたから。夫(漫画家の弘兼憲史さん)も、わが家で「石舞台」と呼ぶ庭の巨石に惚れ、晴れて38年ぶりに武蔵野市民になりました。

柴門ふみ(さいもんふみ)
1957年、徳島県生まれ。『ピックコミックスピリッツ』(小学館)に連載した『東京ラブストーリー』が累計250万部を売り上げ、ドラマ化もされて一大ブームを巻き起こす。その後も、話題となる作品を次々と発表。恋愛をテーマにしたエッセイも好評を博す。漫画近著に『同窓生 人は、三度、恋をする』(小学館)、エッセイでは『大人のための恋愛ドリル』(新潮社)などがある。

PRESENT

今回取材した、柴門ふみさんの直筆サイン本「大人のための恋愛ドリル」を抽選で5名様にプレゼント！詳しくは本誌折り込みハガキをご覧ください。



たです。今どきの店がある一方で、古くからある店や個性的な店も共存しているのが、このまちの魅力だと思います。そんな店をのぞきながら、散策するとても良い気分転換になります。ただ店が多くて回りきれない！駅の南側を見るだけで1年かかりました。今は、北側にある中道通りの店をのぞいたり、息子とラーメン店巡りを楽しんでいます。静かな住宅街でありながら、楽しく店巡りできる商店街があり、緑豊かな公園もある。全てがそろうまちの様子は、昨年まで連載していた『同窓生』という漫画にも描きました。住むにも、描くにももってこいのまち。ただ公園が近いので、夏は蚊が多いことが、ちょっとと難点かな(笑)。

